

E-14 児童の放課後の生活実態

奈良女子大 ○藤本佳子 関川千尋 足田洋子 北村孝

目的 憲法や児童憲章にもあるように、児童の生活が健全に過ごせるように保障すべきことは言うまでもない。がしかし現実には児童をとりまく自然環境や社会環境は、最近とみに、それにふさわしいものとはいいがなくなってきている。本研究では現在の社会にあって子供がどのような育ち方をしているのかという点に視点を置き、その中でも特に既婚者の就労率の多くなっている現在、児童の生活が母親の就労によってどのような影響を受けているのかを検討をおこなう。具体的には、ここでは子供の放課後の過ごし方について、実態調査を行い、望ましい、子供の生活環境について検討を加えることを目的とする。

方法 母親の就労、非就労別、天候別、男女別、学年別の放課後の児童の過ごし方を調査することを取りあげた。調査対象は新興住宅地の小学生のいる家庭の母親および全ての小学生である。抽出方法は、地区の子供会名簿等から小学生のいる家庭をピックアップした。調査方法は、小学生には、平日の放課後の生活時間、母親の就労形態、母親の帰宅時刻をアンケート調査で行った。母親には、母親の職歴、家族構成、子供の保育歴、長期休暇の保育担当者、及び子供のならいごやけいこごとの有無、地域活動、団体活動と放課後の対策等について、直接面接や記入回答によるアンケート調査を行った。

結果 略